



にしな ふみひで  
仁科文秀議員



笠岡ふれあい空港の譲与には  
納得できる計画と慎重な判断を

議員 笠岡湾干拓地内にある笠岡ふれあい空港（農道離着陸場）は、地域の農産物の空輸事業を行うために平成3年に開設された。しかしその後廃止され、今はラジコン愛好家や空飛ぶクルマの試験飛行等、多目的に利用されている。現在は県が所有しているこの施設を、本市が県から譲与を受けなければならぬと考えるのはなぜか。

市長 譲与を受けることで本市の裁量により許可や利用が可能になる。市民にとって利用しやすい特別な場所となり、本市の誇りである施設だと認識していただきたい。  
議員 まだ多様な用途を確認し、可能性を探っている段階であり、将来にわたる安定的な経営は見えていない。活用計画、整備計画、

収支計画はいつまでに策定するのか。

市長 笠岡地区農道離着陸場あり方検討委員会から示された今後の利活用の提言を盛り込み、市民の福祉に資する施設として早めに報告したい。

太陽光発電設備から住民の  
安心安全を守るために

議員 農地等への設置について、地域や住民に対して本市ができる支援は何か。

市民生活部長 市民からの問合せ等については現地確認を行い、設置事業者に対し適切な指導や地域との覚書締結の要請ができる。

建設部長 水路の設置等への助言、指導は適切かつ積極的にさせていただきます。



まなべ ようこ  
真鍋陽子議員



こども基本法・笠岡市子ども条例  
に則った子供の権利保障整備を

議員 ①ヤングケアラーに対し、一人一台タブレットを活用したアンケート調査や相談体制の構築は可能か。②小児の夜間診療体制を市内に構築することは可能か。③笠岡市子ども週間に子供の権利について考えるための講演会や映画上映など具体的な取組を行うことは可能か。

教育部長 ①問題解決のために様々な調査を考える。

こども部長 ②医師不足のため難しい。市民病院、第一病院では対応が可能な範囲で小児科診療を実施。心配な時は救急車を。あるいは市外の施設で受診いただきたい。③現時点で子ども週間に対する具体的な計画は無い。優先順位を考へながら検討していきたい。

金浦中学校ブロック小中一貫校建設予定地が  
土砂災害警戒区域である事について問う

議員 ①金浦中学校施設が土砂災害警戒区域である説明が今年の2月10日に行われた。説明の順番がおかしくないか。②建設部としてのかかわりはこれまでであったのか。

教育部長 ①認識が大変甘かった。

建設部長 ②場所の選定についての協議はなかった。

議員 予算が限られている中、効果を最大限に出すため、縦割り行政はやめていただきたい。土地の性質については最初にしっかりと考えるべきこと。それが最後とは、説明の順番が違う。

その他「子育てステーションについて」「ゲノム編集高ギヤバトマ」等について質問しました。